

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム はるひ苑		
所在地	山口県阿武郡阿東町地福上1643-1		
電話番号	083-952-5025	事業所番号	3578100384
法人名	有限会社 はるひ福祉サービス		

訪問調査日	平成 21 年 5 月 7 日	評価確定日	平成 21 年 7 月 9 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	8 人	常勤 3 人 非常勤 5 人 (常勤換算 5, 9 人)	

(2) 建物概要

建物構造	木造		造り	
	2 階建ての	1	~	階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額	31,000 円	敷金	無	円
保証金	有	200,000 円	償却の有無	一部有	
食費	朝食	250 円	昼食	450 円	
	夕食	500 円	おやつ	100 円	
その他の費用	光熱水費 日額	300円	その他日常生活費 日額	200円	

(4) 利用者の概要 (4月18日現在)

利用者数	9 名		男性	1 名	女性	8 名
	要介護1	1	要介護4	2		
	要介護2	1	要介護5	1		
	要介護3	3	要支援2	1		
年齢	平均	84.4 歳	最低	75 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 原医院 津和野共存病院 歯科 おおた歯科
-------------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

自然豊かな住み慣れた地域で、管理者・職員の行き届いた支援のもと、利用者にとって安心した生活が営まれています。地域の受け入れもよく、地域行事(カルタ大会、新年会など)に参加し、ホームの行事にも住民の参加があるなど地域に根づいたホームとなっています。運営者(兼管理者)は、職員を育てる取り組みに積極的で、スキルアップセミナーを導入したり、研修の参加を奨励し(旅費・日当支給)その成果を報酬・賞与に反映し職員のやる気を引き出し、ひいては利用者により良い支援が行われていることが伺えます。

(特徴的な取組等)

自分の口から食べる喜びを大切に「噛んで食べる」支援に取り組み、利用者全員がテーブルを囲み、一人ひとりのペースにあわせ職員がそばで見守り介助を行い、利用者に改善の兆しも見られます。毎月、モニタリングを実施し、サービスの見直しのための全員参加のカンファレンスを行い(手当て支給)新たな介護計画を作成して、家族に送付しておられます。利用者の日常生活、活動状況をビデオに収録し、テレビに写して一緒に楽しみ、笑顔、笑い声が聞こえていました。毎月沢山の写真入のホーム便りを発行し(B5版8頁)家族に情報を伝えておられます。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

理念の見直し、外部の苦情相談機関の明記など、改善に向け取り組んでおられます。

(今回の自己評価の取組状況)

職員全員に自己評価書を配布し記入してもらい、管理者、計画作成担当で取りまとめおられます。

(運営推進会議の取組状況)

幅広いメンバーを委員に委嘱し、2ヶ月に1回開催しておられます。活発に意見交換が行われ、出された意見はすぐ実行に移すなど積極的な取り組みをされています。

(家族との連携状況)

毎月写真入の楽しいホーム便りを発行し送付するほか、毎月モニタリングにより新たな介護計画書、担当者のお便りなどと一緒に送り、また、返信で家族からの意見を聞き、サービスに反映しておられます。電話や訪問時にも家族へ報告したり話を聞き、季節ごとの行事、誕生会の案内をして、家族との連携を密にとられています。

(地域との連携状況)

自治会に加入し、班当番、地域行事に積極的に参加し、又ホームの行事への参加を案内して地域との交流を深める努力をしておられます。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	本年1月、今までの理念を見直し、新しい理念をつくりあげているが、地域密着型サービスとしての理念が盛り込まれていない。	・地域密着型サービスとしての理念の追加
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を掲示し、毎月2回の会議・モニタリングの際に唱和し、管理者が思いを話して実践に向け取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の中の施設として自治会に加入し、班当番、地域行事(新年会、クリスマス会)には積極的に参加している。毎年、神社のカルト大会に招待され利用者が優勝、準優勝に輝いたり、ホームの花見会に利用者、家族のほか地元住民を招待し交流している。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員に自己評価書を配り意見を聞き、管理者・計画作成者で取りまとめている。外部評価結果を活かし、理念の見直しをするなど具体的な改善に取り組んでいる。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議は幅広いメンバーの参加を得て2ヶ月に1回開催し、意見、要望を聞きサービスに反映している。利用者同士の交流会を開催してはとの提案があり、早速他施設から「花見の会」への招待があり、利用者と一緒に参加し利用者から喜ばれた。	
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	町との連携は良くとれており、相談をしたり、情報提供を受け、サービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月ホーム便り(はるひだより)を発行し、利用者のお誕生会、花見などの様子や職員の異動の挨拶などを掲載し、家族へ送付している。同時に一人ひとりの介護計画書に担当者が便りを添え、暮らしぶりや健康状態などを報告している。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	意見箱を設置し、電話や面会時に意見を聞いたり、家族会からの提案、意見などを聴き、運営に反映している。相談窓口、担当者、外部機関を重要事項説明書に明記し、周知している。2・3ヶ月に1回、町の介護相談員が訪れ利用者とは面談している。ホーム独自の第三者委員は選任されていない。	・第三者委員選任の検討
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	状況の変化や要望に対応できるよう、夜間休日も含め勤務調整をしている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	管理者、常勤職員の異動は無く、利用者の動揺は少ない。又離職がある場合は引継ぎを十分行い、ダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月事業所内でスキルアップセミナーを開催し、職員が自己の目標を立て、挑戦する意欲を引き出す取り組みをしている。研修等への参加を奨励し(旅費等支給)、成果は昇給、賞与に反映している。県外研修への参加機会を提供している。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会や山口市の連絡会に加入しているほか、地域の同業者との交流会を、持ち回りで実施するなど、研修・情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期 待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	利用者・家族の見学や相談を行い、雰囲気に馴染むよう努めている。	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	茶摘、お茶作り、園芸、野菜作り、調理の下準備(洗い、皮むき、魚のさばき方など)、味付け、盛り付けなど、利用者の得意なことを見出し、教えてもらい、楽しみながら支えあう関係を築いている。	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	利用者一人ひとりの話をよく聞き、意向の把握に努め、自己決定を大切に支援している。	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	主治医の意見、利用者、家族の希望を聞き、毎月1回全職員(休日の職員には手当て支給)参加のカンファレンスで検討し作成している。	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	毎月モニタリングをして見直すほか、変化が生じたときは、利用者、家族、関係者と話し合い新たな計画を作成している。	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	要望に応じて受診の送迎、付き添い、買い物、地域行事への参加、マッサージ治療の支援、家族の宿泊、食事の支援など柔軟に対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の受診の支援、薬の受け取りなど適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期の対応については、家族、主治医、職員で話し合い、受け入れる方針で支援している。在宅酸素の利用者もおられ本人の希望を聞き、外出の支援もしている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	個人の尊厳を傷つけないよう十分配慮している。記録等は別室に保管している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	生活歴を把握し、希望を最優先して支援している。そのために職員のレベルアップの研修に力を入れている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	地産地消を心がけ、三食ともホームで調理し、利用者ではできる範囲内で食材の下準備、調理、配膳、片付けなど職員と一緒にやっている。食事は一緒に食べる職員、介助をする職員など状況に応じた支援をしている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は16時頃からとし、利用者の希望、状況を見て、ほぼ隔日の入浴としている。足浴、半身浴など利用者の状態に合わせて支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴を把握し、得意とする役割や楽しみを見出して支援している。買い物、散歩、カラオケ、アカペラで自由に歌うなど、張りのある生活ができるよう配慮している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物、散歩(車椅子の人も)、季節(花見、祭り)の外出など、利用者の希望を聞き、戸外に出かける支援をしている。	
(4)安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしていない。職員研修で徹底をしている。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間の施錠以外は鍵をかけていない。部屋の周囲の縁側からは、自由に入出りができ、常に見守り寄り添う支援をしている。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリはっと・事故報告書に記載し、ミーティングで改善策を検討し、事故防止に努めている。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成し、医師、看護師の指導のもと機会あるごとに勉強している。誤嚥の研修会にも参加し伝達している。救急救命講習は年1回消防署の協力により開催している。	
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回避難訓練を実施し、地域の協力が得られるよう働きかけを行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	服薬管理簿を作成し、在庫確認を行い、薬の説明書も添付してすぐ見られるようにしている。薬はその都度手渡して服薬を確認し、必要な情報は主治医にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、声かけをして口腔ケアを支援している。義歯、歯ブラシの清掃消毒の支援も毎日実施している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	地産地消を基本にバランスよい献立をたて、介護記録に食事摂取量を記入し、水分摂取量にも気をつけている。嚥んで食べることを基本とし、時間をかけてゆっくり食事をとる支援をしている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症チェックリストを職員全員に配布し、年2回チェックしている。利用者・職員は手洗いを確実に実行している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	純日本家屋を改装したホームは、台所、食堂、居間がつながり、食後はテーブルを片付け、畳に寝たり、ソファで寛いでビデオ見たり、歌を歌ったりして楽しんでいる。家の周囲は季節の草花が咲き、中学の校庭では子供たちの賑やかな声が聞こえるなど住み慣れた地域の中で、職員に大切に見守られながら、普通の生活が営まれている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者・家族の希望により畳の部屋、ベッドの部屋が選択でき、使い慣れた家具、道具が持ち込まれ居心地よく過ごしている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム はるひ苑
所在地	山口県阿武郡阿東町地福上1643-1
電話番号	083-952-5025
開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (4月22日現在)

ユニットの名称 グループホーム はるひ苑						
ユニットの定員		9 名				
		9 名	男性	1 名	女性	8 名
ユニットの 利用者数	要介護1	1		要介護4	2	
	要介護2	1		要介護5	1	
	要介護3	3		要支援2	1	
年齢構成	平均	84.4 歳	最低	75 歳	最高	90 歳

【自己評価の実施体制】

	職員全体で行い、それを集計。ふまえて作成する。
実施方法	
評価確定日	平成 21 年 4 月 22 日

【サービスの特徴】

	<p>・阿東町の大自然の四季、澄みきった空気、高原で育った食物等大変良い環境の中にあります。また、隣接する阿東中学校、地域の行事の拠点でもある老人福祉センターへは、徒歩3分の距離にあります。</p> <p>・平成14年開所より7年目を迎え、家族会・地域の皆様にも楽しんで頂ける行事やイベントにも挑戦しています。また、利用者様の活動・行動を形に残す試みとして、映像制作にも取り組んでいます。</p> <p>・地域になくてはならない苑として、理念を掲げて努力しております。</p>
--	--

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 (1)	〇地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	08年8月よりそれまでの理念の見直し(成文化)を行った。6ヶ月をかけて09年1月はるひの新理念として掲げる事ができた。	
2 (2)	〇理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	新理念を毎月のミーティング、モニタリングの際に唱和することと、併せて内容の説明、管理者としての思いを噛み砕いて話している	
3	〇運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	示している。	
4	〇運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	取り組んでいる。ミーティング、モニタリング時毎日の、朝礼、申し送り時には、必ず書く人一人一人の最新の情報を正確且つ詳細に伝える。又、自立支援の目標に基づき配慮を欠かさない。	
5	〇家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	取り組んでいる。事とあるごとに、理念の共有に取り組む働きかけをしている。	
2. 地域との支えあい			
6	〇隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえよう日常的な付き合いができるよう努めている。	努めている。隣近所の方に声をかけ合うことは、何時ものことです。気楽に立ち寄ることには、なっていません。	もっと積極的に取り組みたい。
7 (3)	〇地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	努めている。毎年新年のカルタ大会には、招待していただき参加している。自治会の新年会、クリスマスイベント、等にも声をかけていただき、参加している。	
8	〇事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	取り組んでいる。味噌づくり情報、グランドゴルフ情報などの活用と取り込み。	これからの実践としてホームページ、はるひ便り地域版の発行の予定がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	取り組んでいる。常に、改善点に目を向けて日ごろの生活の中に活かすことにしている。たとえば、理念の見直しによる、新理念教育の実践、と進捗度、評価調査に向けた取り組みなど、常に自己評価、外部評価を基本にすえた生活、サー	
10 (5)	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	活かしている。運営推進会議の委員さんから出された意見、要望などをいち早く取り組みに反映している。利用者の交流会をする提案を頂き、即刻、桜見の会に参加した。	他ホームの利用者さんとの交流会の開催及び、お茶会、研修会の開催。
11 (6)	○ 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	取り組んでいる。事故報告、介護実地指導など必要に応じてサービスの質の向上の為の指導をいただいている。	
12	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	支援している。地域福祉権利擁護事業や、成年後見制度については、常に、自己研鑽しながら、その次期に応じた提案、あるいはご相談に応じ、又、中でも専門家への引き合わせ、指導など個々に応じた、対応は、惜しみなくしている。	
13	○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	努めている。具体的に現場を踏まえた問題の洗い出しをする。	職員の意見の出しやすい環境を常に作り出す。
4. 理念を実践するための体制			
14	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	図っている。極力契約書、重要事項などは、一度お持ち帰りいただき、熟読の上、後日あるいは後日契約を結ぶことにしている。	
15	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	反映させている。利用者が、来苑した家族へ自室で話しをしてもらえるように、自室でのお茶の時間を設け、なるべく家族に苑の不満や、不服などが言えるような環境を提供している。	
16 (7)	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	報告している。毎月の定期便である、はるひ便り、受診表、領収書、写真、介護計画書、家族に宛てたお便りなど、又、苑内の職員の情報、(退職、入社など)の報告を必ずしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	応じている。常に用意している。		
18 (8)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	定めている。家族、その関係者には、契約時の説明、重要事項説明時に詳しくしていると共に、玄関には、ご意見箱の設置、外部には、第三者機関の設置をお知らせしている。		
19	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	反映させている。常に自社の組織の中でも重要な位置を占める責任者会議にかけ、常に検証しながら又、反映している。		
20 (9)	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	努めている。職員のスムーズな連携プレーにより、家族の状況に変化にも十分対応ができています。		
21 (10)	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	配慮をしている。常に申し送り、引継ぎをスムーズに行い利用者に心理的負担の無いように配慮している。担当職員を決め、月の報告書の中でお知らせした		
5. 人材の育成と支援				
22 (11)	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	進めている。スキルUPセミナーの導入による、人事制度の確立を目指している。2年前から幹部職員と取り組んだ制度をいよいよ実践する段階に至り、職員との信頼の意思疎通を目指している。		
23	○職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	対応している。男女、異年齢、異経験の職員を配置している。趣味、夢、生き方、価値観の違いによるバリエーションにとんだ面白い		研修については、段階を経てチャレンジできるような環境づくりを常に心がけている。
24 (12)	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	取り組んでいる。地域のスタッフ交流会に参加している。持ち回りの会は、常にスタッフ同士のいい刺激の勉強会の場、意見交換の場、情報交換の場になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		職員にとつての自己鍛錬の場、知識取得の場、楽しみの場になるようにしていきたい。
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		本人様を取り巻いてきたバックヤードについては、聞く限りでしか難しい面もあり、家族の方に大いにお話していただく機会を持ちたい。
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		もっと本人からのアドバイス、注意などに耳を傾けるようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○ <u>本人を共に支えあう家族との関係</u> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	築いている。情報提供の共有をしながら、家族にも支えていただく重要性を常にお話しし、喜び悲しみに前向きに対応している。		もう少し工夫をして、家族に関心を示してもらえるように心がける。
34	○ <u>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</u> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	支援している。努力している		よりよい関係づくりにいたる協力体制を作り出す。
35	○ <u>馴染みの人や場との関係継続の支援</u> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	支援に努めている。過去の関係の訪問者、手紙などは、本人にはもとより、家族にもお知らせをしている。又、来苑者については、写真を取らせていただいたり、送らせていただいたりしている。		
36	○ <u>利用者同士の関係の支援</u> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	努めている。いいときも悪いときも、常に本人がメインになれるような、声掛けをしスタッフの連携プレーにより、問題の困難化を避けるようにしている。		具体的な人間関係を作り出すお手伝いをしていきたい。
37	○ <u>関係を断ち切らない取り組み</u> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	大切にしている。地域の方でもあり、何かにつけてお付き合いしているし、思い出話もできる関係がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	○ <u>思いや意向の把握</u> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に聞き取り実行に向けて、取り組んでいる。担当が、中心となり本人の意向などをききだして対応している。		
39	○ <u>これまでの暮らしの把握</u> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	努めている。行政[介護保険課]担当あるいは、担当ケア、マネより情報提供をいただいている。		
40	○ <u>暮らしの現状の把握</u> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	努めている。毎月のモニタリングには、必ず、一人一人の一日の過ごし方を見直しながら、行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	主治医の意見、本人の意向、家族の希望など、を職員とカンファレンスをおこない、介護計画の客観的支店にたつた物にしていくようにしている。	
42 (17)	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態の変化(生活の変化)がおきた場合には、変更している。	
43	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	活かしている。個々の日々の生活は、生活記録表に書き込みながら、毎朝のミーティング事に確認しながら申し送りしている。又、個人記録にも書き止め、活かしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	支援している。状況に応じて家族の宿泊、食事、外出などこまめに、行き届いた気配りをしている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	支援している。何かにつけてお世話になる可能性があり、推進会議などをお願いしている。	できるだけ地域の方にはるひ苑を知っていただきたいと、思っている
46	○ 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	地域社会に自社のサービスのノウハウを還元する為にも、研修生の受け入れ、インターンシップの取り組みなど積極的に行っている。又、ホームの見学は、いつでも歓迎している。	
47	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	常に心がけている。実際のところ、例がない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>○<u>地域包括支援センターとの協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		
49 (19)	<p>○<u>かかりつけ医の受診支援</u> 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p>○<u>認知症の専門医等の受診支援</u> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p>○<u>看護職との協働</u> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		気軽にやっていただけるようにしていきたい。
52	<p>○<u>早期退院に向けた医療機関との協働</u> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53 (20)	<p>○<u>重度化や終末期に向けた方針の共有</u> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		ターミナルに向けた全員参加の取り組みが始まっている。
54	<p>○<u>重度化や終末期に向けたチームでの支援</u> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		ターミナルに向けた全員参加の取り組みが始まっている。
55	<p>○<u>住み替え時の協働によるダメージの防止</u> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
56 (21)	○プライバシーの徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	特に個人の負の情報には、触れないように心がけているし、個人の尊厳を大切にして、かかわりを持っている。	
57	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	職員全員が本人本意の介護ができているか、検討をしながら取り組んでいる。	わかる力の、継続を願いながらサービスをしていきたい。
58	○“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	支援している。理念にも掲げているように“残された力で暮らしの喜びと自身を”うたっている。ことから、できる力の大切さを引き出す醍醐味は、職員の中にいきずいている。	できる力の維持継続をしていくことの大切さを感じている。
59 (22)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。	支援している。職員の介護力のレベルUPにより希望を最優先するように介助している	感受性の優れた職員作りを目指している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	努めている。希望は、その都度伺うことにしている。	
61 (23)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	努めて行うようにしている。また、認知できる食事内容、調理方法を考え、食事を楽しむことができるような工夫をしている。	
62	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	支援している。職員は、配慮している。	
63	○気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	支援している。夏は、布パンツにかえたり、パットも不快にならない位にトイレ誘導に、職員全員で取り組んでいる。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	〇入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	体調のこともあり、一応一週間2回と決めているが、ご希望及び状況、体調により十分支援している。		
65	〇安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	支援している。自然体で安眠に導けるよう努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	支援している。希望を話していただくように仕向けているし、聞き取ったらなるべく早く実現できるように、努力、配慮している。		順番でじっくり話せる時間を設けて生きたい。
67	〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	支援している。職員は皆様が自分からお金で買い物をするこを、“必要なこと”として尊重している。一週間に一度のおやつ購入は、続けている。		
68 (26)	〇日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	支援し希望に添えるように、職員同士の協力体制を強化している。		
69	〇普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	支援している。家族には、常に理解をお願いしている。苑の職員にも徹底して“思いで創り”の脇役になっていただけるよう努めている。		
70	〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	支援している。本人の希望に最大限努力している。		
71	〇家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	工夫している。来客者が、気兼ねなくお話ができるように、いつでも開けていることを伝えている。お茶もできるようにしている。		
72	〇家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	対応している。何時もそのようなご希望にこたえる体制創りをしている。		こちらの方からお願いしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
73	<p>○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>	<p>呼びかけている。年2回 4月桜見、12月総会、毎月推進会議、本人の誕生日の参加をしている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
74 (27)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>	<p>取り組んでいる。社内職員研修にて、徹底を図っている。特にミーティング時には、課題に挙げている。</p>		
75 (28)	<p>○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>取り組んでいる。夜間、玄関にかぎをかける以外は、まったく施錠は、していない。</p>		
76	<p>○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>配慮している。</p>		
77	<p>○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>取り組みをしている。特に切れ物、はさみ、カッター、など注意して、見守りながら安全に使用している。</p>		
78 (29)	<p>○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>取り組んでいる。注意している。特にミーティング時には、課題に挙げている</p>		
79 (30)	<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>行っている。年一度は、救急救命の講習を予定している。今年度は10月の予定</p>		
80	<p>○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>	<p>講じている。ひありはっとの提出から、職員全員がミーティング時に現状を踏まえた検討会をしている。改善点、見直しの点などが提案される。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年二回の非難訓練、を行い、全職員に徹底訓練をしている。又、非常時に地域の人々の協力が得られるような働きかけを行っている。		
82	〇リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	話あっている。家族には、面談できるときはいつでも、リスクの話はするようにしている。又その予防の話にも意見を聞かせてもらっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	〇体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	常に個人生活記録、日誌、申し送りなどによる職員間の情報共有により異変の早期発見に取り組んでいる。		
84 (32)	〇服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	各個人の内服薬お処方内容は確認している。たとえば、変更があった場合などは申し送り等で確認し、又受診表での説明で、職員一人一人に行き渡るようにしている。		
85	〇便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	十分な取り組みをしている。なるべく薬を使わないのが、方針なので、特に便秘、排尿障害など、声掛けにて対応している。		
86 (33)	〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	支援している。毎日消毒(義歯、ユッカ、歯ブラシ)など。口腔ケアは、全員食後直行で行っている。(3回・一日)		
87 (34)	〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	支援している。個々に合わせた対応をしている。		
88 (35)	〇感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	実行している。マニュアルを基に社内研修をしている。		
89	〇食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	努めている。毎日の調理器具の消毒洗浄などを心がけ、調理者の手洗い、手の傷などには特に注意している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	工夫をしている。出入りは自由となっている。	昔の古い家なので、決して開放的ではないので、なるべく、周囲を散歩するように心がけている。
91 (36)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	工夫をしている。	特に食べ物、花、木、に関心(季節の移り変わりなどなど)を示されるようにしていきたい。
92	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	工夫をしている。各居室以外は、どこにでも、自由にいけることにしている。	職員が、率先して工夫するようにしたい。
93 (37)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	工夫をしている。ここの希望を聞き、ベットより畳がよければ畳にしたり、壁に思い出の写真を貼ったり、自由になっている。	
94	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	行っている。換気には注意している。室温は、皆さんに聞き、話し合い調整している。通気性がよく、夏は特に涼しいことが、特徴。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	工夫している。既存の建物を利用した居室なのであるが、個々に気にいっていただき希望の機能、雰囲気の中ですごしている。	
96	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	工夫している本人の希望を基に、綿密なモニタリング、主治医の支援、スタッフの共通理解の下でバランスの取れた介護を行っている。	
97	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	自然環境に恵まれている事を活かし、屋外に出て楽しむことは、自由にしていただきたい事です。	季節の変化を感じていただき、草取り、畑の手入れ、山菜取り、等の生活に即した事につなげていきたい。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1/3くらいの	②利用者の2/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある	②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1/3くらいと	②家族の2/3くらいと ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに	②数日に1回程度 ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない	②少しずつ増えている ④全くない
108	職員は、生き活きと働いている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1/3くらいが	②職員の2/3くらいが ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1/3くらいが	②家族等の2/3くらいが ④ほとんどできていない